



## T コマンド

---

この章では、T で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

# tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem: [//server/]] [directory] filename [lines]
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	表示するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数。有効な範囲は <b>0 ~ 80</b> です。



(注)

*filesystem://server/directory/filename* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

末尾の 10 行を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>copy</b>	ファイルをコピーします。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# terminal length

現在のセッションの端末画面で出力が一時停止する前に表示する出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal length lines**

**terminal no length**

## 構文の説明

<i>lines</i>	表示する行数。有効な範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しないようにするには 0 を指定します。
--------------	--

## コマンド デフォルト

コンソールの初期デフォルト値は 0（出力を一時停止しない）です。仮想ターミナルセッションの初期デフォルト値はクライアント ソフトウェアにより定義されます。**no** 形式のデフォルト値は 24 行です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

セッションは、**terminal length** で設定された数の行を表示した後に一時停止します。次の行画面を表示するにはスペースバーを押します。または、Enter キーを押すと、次の行が表示されます。コマンドプロンプトに戻るには、Ctrl+C を押します。

端末の行数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。

## 例

次に、一時停止する前に端末に表示されるコマンド出力の行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、デフォルトの行数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。

# terminal session-timeout

現在のセッションの端末無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal session-timeout** *minutes*

**terminal no session-timeout**

構文の説明	<i>minutes</i>	分単位での時間。有効な範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。端末無活動タイムアウトをディセーブルにするには、0 を指定します。
コマンド デフォルト		ターミナル セッション タイムアウトはディセーブルです (0 分)。
コマンド モード		EXEC モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン		ターミナル セッション無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションだけに適用されます。
例		次に、セッションの端末無活動タイムアウトを 10 分に設定する例を示します。 <pre>switch# terminal session-timeout 10</pre> 次に、セッションのデフォルトの端末無活動タイムアウトに戻す例を示します。 <pre>switch# terminal no session-timeout</pre>
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。

# terminal terminal-type

現在のセッションの端末タイプを設定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal terminal-type** *type*

**terminal no terminal-type**

## 構文の説明

<i>type</i>	端末のタイプ。タイプ文字列は、最大 80 文字の長さで、大文字と小文字が区別されます。また、有効なタイプ (ansi、vt100、または xterm など) である必要があります。
-------------	--

## コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に端末タイプが設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は vt100 です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

端末タイプの設定は、現在のセッションだけに適用されます。

## 例

次に、端末タイプを設定する例を示します。

```
switch# terminal terminal-type xterm
```

次に、デフォルトの端末タイプに戻す例を示します。

```
switch# terminal no terminal-type
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナル セッションの設定を表示します。

# terminal width

セッションの現在の行を表示する端末画面上の文字の列数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal width columns**

**terminal no width**

## 構文の説明

*columns* 列の数。有効な範囲は 24 ~ 511 です。

## コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に列の数が設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は 80 列です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

端末の列数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。

## 例

次に、端末に表示する列の数を設定する例を示します。

```
switch# terminal width 70
```

次に、デフォルトの列数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no width
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。

# traceroute

IP アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source
src-addr]
```

## 構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IP アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。
<b>source</b> <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IP アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、ネットワーク デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute 192.0.255.18 vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping</b>	別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を表示します。
<b>traceroute6</b>	IPv6 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。

# traceroute6

IPv6 アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute6** コマンドを使用します。

```
traceroute6 {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

## 構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレス。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。
<b>source</b> <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスを指定します。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping6</b>	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<b>traceroute</b>	IPv4 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。